

～「チームのうね」で育てる食育活動～ 坂井市立長畝小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	8回(のべ) 8日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	50人
授業ボランティア(含:低ボラ)	300人
登下校支援ボランティア	600人

(3) 特色ある活動

「チームのうね」で育てる食育活動

本校は昨年度「食育実践活動事業」の指定を受け、生活科や総合的な学習の時間を利用して取り組んできた。本年度も地域の人々や保護者に協力を依頼し、専門的な知識を受けながら食に関する学習を続けている。本年度はNIEの指定も受け、新聞活動を通じて学習内容を外部に発信している。

①地域の協力(畑の借用)

校地内に学年園はあるものの、各学年が複数の野菜を栽培するためには狭く、土地不足が課題であった。そこで、地域のことを熟知している地域・学校協議会委員の方々から地元の農家を紹介していただき、空いた畑(約1a)をお借りし、職員が耕運機で耕したり肥料をまいたりして学校園として整備した。その後、子どもたちの手で看板を作成したり、草取りをしたりして管理を続けている。こうしたことにより、多くの学年で複数の野菜の栽培が可能となりより多くの野菜を収穫することができるようになった。



②児童の活動例(2年生)

J Aの方や畑ボランティアの方を呼び、「きゅうりの酢の物」、「トマトのカレーマリネ」、「夏野菜のお好み焼き」を作り全員で会食した。トマトは収穫が間に合わなくて購入したが、その他の野菜は、2年生が学校園で育て収穫した野菜(きゅうり、なす、ピーマン、枝豆)を使った。レシピを持ち帰り、家でも作って食べた子どもたくさんいた。この活動の後、野菜が好きになった児童が増えたようである。

③学習の成果を地域へ発信(6年生)

6年生は、今まで調べたことや体験したことを研究の集大成として新聞にまとめ、12月に地域に向け発信した。子どもたちの中に、日本の食の中心であり、今まで日本人の命をつないできた米や大豆を大切に思う気持ち、これからしっかり食べていきたいという気持ちが育ってきた。

成果と課題

(1) 成果について

保護者や地域の方との連携によって有意義な活動が実施でき、こうした活動の積み重ねにより子ども自身に健全な食生活を続けていこうとする意識が育ってきたと思う。また、各教科やNIEにも関連させて取り組んだことで効果的に学習が進められた。さらに、子どもたちに学習後にふり返りをさせたことは、改めて食べ物の大切さに気づいたり、今までの食生活を見直したりするよい機会となったようである。

(2) 課題および次年度に向けて

今後もこうした食育の取り組みを継続的に行うためには、さらに家庭や地域との結びつきを深め、総合的な学習の時間の内容や教科の連携などについても見直しを図っていく必要がある。学校で学んだことが、実生活に結びつき、将来の生活にも活かされるようなカリキュラムの開発も行っていきながら、今後も実践に取り組んでいきたい。

